

令和3年度 文学塾 講義テーマ・担当者

令和4年3月26日(土)オンライン開催

1

時限

10:00~10:45

◆日本神話の箸と櫛

谷口雅博 教授

専門分野：日本上代文学／「古事記」・風土記

日本神話には様々な小道具が登場します。その中には我々にとっても身近な物が多く見受けられます。本講座では、日本神話に登場する「箸」と「櫛」を取り上げ、神話に見られるこれらの小道具にどういう意味が込められているのか、そして神話の解釈にどう関わっていくのか、考察します。特に、「箸」と「櫛」が両方出てくるヤマタノヲロチ退治神話を中心に考えて行きたいと思います。

2

時限

11:00~11:45

◆中国語の話

呉鴻春 准教授

専門分野：中国語／中国語教育の研究

日本では大学に入学後、多くの学生が中国語を履修します。日本の大学生が中国語と呼んでいるのは、「普通話」(プートンファ)のことであり、政府が定めた共通語です。また、この「普通話」は、発音・語彙・文法の三つの方面から定義されている言語でもあります。本講義では、「普通話」と方言のことから説明を始め、中国語学習に大切な発音・語順、また書体(簡体字)にも論じ及ぶ予定です。

統一テーマ講義

異界・メディア(媒体)・伝達

3

時限

13:00~13:45

◆欧米圏のホラー映画における異界、メディア、メディアム(霊媒)

上石田麗子 准教授

専門分野：英語／英国20世紀文学・文化

欧米圏のホラー映画におけるメディア表現を検証します。映画においてメディアが異界を召喚する手段や恐怖の媒介物として使われていることを論じます。そして、欧米圏のホラー映画の影響を受けたJホラーにおけるメディアの使用方法を分析します。メディアはどのように恐怖演出の手法や「恐怖」の観念に影響を与えたのでしょうか。全体的に、メディアとメディアム(霊媒師)を通底するテーマとします。

4

時限

14:00~14:45

◆オーロラをめぐる言説と江戸時代の人々

岩橋清美 准教授

専門分野：日本近世史／社会経済史・文化史・地域史

「オーロラ」というと、北欧の夜空が思い起こされますが、前近代においては日本各地でも見えたことが明らかにされています。その様子は、藤原定家の『明月記』などにも記されており、「赤気」と呼ばれていました。ここでは、明和7年7月28日(1770年9月17日)に現れたオーロラに関する史料をもとに、当時の人々がこの珍しい天文現象をどのように理解していたのか、また、その情報がどのように伝播していったのかを紹介いたします。

5

時限

15:00~15:45

◆真実と噂話

小手川正二郎 准教授

専門分野：西洋近現代哲学／現象学

私たちはうわさ話、さらにはフェイクニュースを単なる「嘘」「虚偽」とみなしがちで、かつ、信じやすい傾向があります。そうした虚偽と対置される「真実」というものを、そもそも私たちはどのようなものとしてとらえているのでしょうか。講義では、哲学的観点(とりわけ現象学と呼ばれる哲学の一領域)から、真実と噂話の見分けがたい境界線について、受講者と一緒に考えていけたらと思います。

6

時限

16:00~16:45

◆「異世界」から読み解く日本文学史

伊藤龍平 准教授

専門分野：伝承文学

近年、「異世界もの」と呼ばれるジャンルが、ライトノベルやマンガなどで人気を博しています。そうした主人公が何らかの理由によって異世界(ここではないどこか)に行く、あるいは、異世界から何者かが来るという物語は、日本の古典文学や伝承文学(神話・昔話・伝説など)に多く見られます。この「文学塾」では「異世界」を軸に、日本の文化について考えてみます。

文学塾申込締切：令和4年3月14日(月)

※LIVE配信は、300名に達した時点で申し込みを締め切ります。

※見逃し配信あり!(期間限定) ○LIVE配信をお申し込みの方には、LIVE終了後、録画も配信します。

※変更等が生じた場合、大学ホームページでお知らせします。